

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

大学院保健学研究科

部局長名：

竹田 芳弘

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・博士前期課程、後期課程ともに定員の充足を維持する。</p> <p>・がん看護専門看護師養成コース、助産師養成コース、医学物理士養成コース、放射線安全・医療応用学コースなどのコースワーク主体の事例を推進する。特に前期課程の助産学コースの定員充足と修了者の助産師資格獲得を推進する。</p> <p>・生殖補助医療技術キャリア養成特別コースについては学部・大学院一貫体制で教育し、修了者及び胚培養士の資格取得を推進する。</p>	<p>・平成29年度の入学予定者は、博士前期課程27人(定員26人)、博士後期課程11人(定員10人)であり、定員充足は達成できている。</p> <p>・平成28年度の大学院修了者は、前期課程で33名、後期課程で5名であった。後期課程の学位論文の内、アクセプトされた英文論文は3件であった。保健学研究科の大学院生は、社会人が割合的に多いのが特徴である。社会人のリカレント教育という面ではその任を果たしているが、病院勤務の社会人では、大学院在学中に勤務内容の変更や勤務部署、勤務地の異動などにより、長期履修となる大学院生も多い。特に後期課程では休学者も少なくなく、3年間(標準修業年限内)での修了者が少ない現状がある。今後はこれらへの対応が必要と考えている。</p> <p>・高度実践看護師(がん看護専門看護師)コース、助産学(助産師養成)コース、医学物理士コース、岡山大学耐災安全・安心に関する人材育成特別プログラム大学院コース(旧放射線安全・医療応用学コース)などの各コースを選出した学生は、国家試験の受験資格を得たり、各コースを修了した。がん看護専門看護師養成コースにおいては、従来は28単位で行っていたが内容の充実化を図るために授業科目を38単位に拡充・変更する申請が認められ28年度から実施することとなった。さらに、新しいコースとして、細胞検査士コースを検査技術科学分野に開設した。</p> <p>・助産学コースの募集人員は8人程度であり、博士前期課程看護学分野の定員14人の中に含まれている。平成29年度は、看護学分野の志願者のうち19人が助産学コースの履修希望者で、そのうち10人が合格・入学したので、募集人員は充足できた。助産学コースを学部から大学院博士前期課程に移行してから大学院博士前期課程の入学を希望する学生が増えているが、助産学コースの履修希望者だけで看護学分野の定員を超える状況が続いており、助産学コースを受講希望しない学生が看護学分野に入学できない事態となっている。今後、助産学コースの募集人員を内数から外数に変更することなども検討課題となっている。</p> <p>一方、平成28年度の助産学コース修了者12人のうち、助産師国家試験の合格者は9人で、博士前期課程にコースを開設して以来、初めて合格率100%を達成できなかった。今後、詳しく原因を分析する予定である。</p> <p>・生殖補助医療技術キャリア養成特別コースにおいては、学部・大学院一貫体制の教育を行い、学部生2名(検査技術科学専攻)がコースを修了した。</p> <p>・博士後期課程のコア科目として、英語で講義をする「Introduction course for health sciences」を開講した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-2 大学全体への貢献
<p>博士前期課程、後期課程入学者数 がん看護専門看護師、医学物理士、助産師の資格取得者数 放射線安全・医療応用学コース、生殖補助医療技術キャリア養成特別コースの修了者数</p>	<p>大学院の定員充足 大学院教育の充実化</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>がん看護専門看護師資格取得者数:2名、医学物理士資格取得者数:1名、助産師の資格取得者数:9名 岡山大学耐災安全・安心に関する人材育成特別プログラム大学院コース(旧放射線安全・医療応用学コース)修了者数:1名(前期課程)、岡山大学低線量放射線環境安全・安心工学研究教育プログラム修了者数:1名(後期課程) 生殖補助医療技術キャリア養成特別コースの修了者数:2名</p>	<p>がん看護専門看護師資格取得者数:2名、医学物理士資格取得者数:1名、助産師の資格取得者数:9名 岡山大学耐災安全・安心に関する人材育成特別プログラム大学院コース(旧放射線安全・医療応用学コース)修了者数:1名(前期課程)、岡山大学低線量放射線環境安全・安心工学研究教育プログラム修了者数:1名(後期課程) 生殖補助医療技術キャリア養成特別コースの修了者数:2名</p>
②研究領域	自己評価
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・27年度に新たに設置した研究開発・推進委員会において各教員、各分野の研究業績の把握をし、地域連携領域、国際連携領域、外部資金獲得、産学官連携領域について、これからの保健学研究科の研究推進の方向性について分析、検討を行い若手教員の研究を援助する。</p> <p>・科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。</p>	<p>・保健学研究科内に設置した研究開発・推進委員会において、分野内の研究業績の把握、研究推進の方向性を検討した。若手教員、大学院生の英語論文の採択率を目指して、英文校閲料支援を企画し、Peer Reviewed Journalに投稿される原著論文(アブストラクトは対象外)を補助対象に、予算の総額を50万円程度として、平成29年度から申請者の募集を開始することとした。</p> <p>・「外部資金取得の支援」の一環として、科学研究費についても定例会議(月1回)で検討を重ね、過去の獲得実績、研究テーマ等について情報交換し、若手教員に対する働きかけなどについて、三分野での詳細な支援内容を検討した。その結果、平成29年度の新規申請は38件(35人)、継続者が18人であり、新規+継続で53人/62人=85.5%に達した。(H28年度申請では77%)</p> <p>・教員の採用においては、公募時に、「海外留学もしくは海外研修の経験がある者が望ましい」ことを明記している。平成28年7月には、外国の大学での研修を修了した若手女性教員を、講師として1名採用した。また、平成29年2月には、女性教員特別昇任(ポストアップ)制度により、女性教員を教授として1名ポストアップさせた。</p> <p>・平成30年4月に設置予定の大学院医療統合科学研究科に関しては、専任教員として、看護学分野から2名、放射線技術科学分野から1名、検査技術科学分野から1名の、計4名を選出した。さらに、専任教員が担当する講義以外にも、新研究科における講義について、保健学研究科の教員が兼任して担当することとした。このような密接な関係性のもと、研究領域においても、医療統合科学研究科に移籍する教員を中心に、同研究科との共同研究を今後進めていくこととした。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-2 大学全体への貢献
<p>保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学者数 学位論文数(英文論文数) 科学研究費応募数、科学研究費採択率</p>	<p>外部研究資金の獲得の推進</p>
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学者数:平成29年度入学予定 18名(内、新卒15名) 学位論文数(英文論文数):33件(前期課程)、5件(後期課程) 内、英文3件 科学研究費応募数:新規申請38件(35人)、継続者18人</p>	<p>保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学者数:平成29年度入学予定 18名(内、新卒15名) 学位論文数(英文論文数):33件(前期課程)、5件(後期課程) 内、英文3件 科学研究費応募数:新規申請38件(35人)、継続者18人</p>

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>・周産期医療、地域母子保健に関するスタッフのスキルアップやリカレント教育による「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを計画し、履修者の養成を行う。</p> <p>・大連医科大学(中国)大学院との O-NECUS(岡山大学ー中国東北部大学院留學生交流)プログラム協定による短期留學生の受け入れやTurgut Özal大学(トルコ)との国際交流を行う。</p>	<p>・平成28年度においても「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを実施し、周産期医療、地域母子保健に関するスタッフのスキルアップやリカレント教育、産科医療における即戦力育成に向けて、助産学コースの大学院生と現役助産師と共に学び、履修者の養成を行った。</p> <p>・平成28年度から、O-NECUSプログラムに正式に参加した。また、O-NECUSプログラム修了者外国人留學生特別入試を実施し、入學者を選出した。Turgut Özal大学(トルコ)との国際交流については、他のトルコの大学も含めて調整を進めたが、トルコのクーデター未遂事件により、当初計画の留學生受け入れが大幅に減少し、特別聴講學生3名となった。特別聴講學生に対しては解剖実習を行った。</p> <p>・ミャンマー・ヤンゴン看護大学との交流を進めるために、岡山大学病院の看護研究・教育センター、看護部のメンバーとヤンゴン看護大学交流コア会議を定期的に開催した。平成28年4月には、国費外国人留學生として2名のヤンゴン看護大学からの留學生を受け入れ、研究指導を開始した。9月には、「若手ミャンマー看護学系教員の研究および教育力の向上に向けた科学技術交流事業」として教員を5名受け入れ、研修を行った。平成29年1月には、ヤンゴン看護大学教員の看護実践人育成プログラムで大学病院に研修に来た教員に対して講義をした。</p> <p>・その他、外国人短期研修生としてボルドー大学(フランス)から1名、シーマハサラカム大学(タイ)から2名を受け入れた。また、博士後期課程では、Turgut Özal大学(トルコ)から特別研究學生1名を受け入れ、指導した。</p> <p>・日本看護協会、日本診療放射線技師会、日本臨床衛生検査技師会などの職能団体からの要請を受け、各団体の構成員へのリカレント教育や一般公衆に対する保健・医療教育や指導を行った。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	③-2 大学全体への貢献
<p>「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム修了者数</p>	<p>地域医療への貢献 留學生受け入れプログラムの開発</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
	<p>「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム修了者数:17人 国際交流受入数:11名</p>
【総括記述欄】	
<p>・全体的にみて、年度目標はほぼ達成できたと考える。教育領域においては、例年と同じく大学院への入学希望者は多く、平成29年度入試状況では、博士前期課程では26名の募集人員に対して40名が受験し、後期課程では10名の募集人員に対して11名が受験した。定員の充足では達成できているが、今後の課題として、助産学コースの定員の問題や後期課程での長期履修者への対応が必要と考えている。研究領域においては、平成27年度に保健学研究科内に設置した研究・開発推進委員会により一定の効果も出てきているが、今後はさらに若手教員や大学院生の研究面での活発化を目指して、研究助成などの対応を進めて行く予定である。さらに、平成30年4月に設置予定である医療統合科学研究科においては、他分野に渡る研究を開発、推進していく考えである。社会貢献では、保健・医療の領域における教育や指導を持続していく予定である。また、国際交流についても、外国からの研修希望に対して対応していく考えである。</p>	